

記者発表（資料配布）（本紙を含めA4：2枚）			
月／日（曜日）	担当部署名	電話番号	発表者名
平成26年4月28日（月）	総務課 広報室	0790-82-2549	広報室長 谷口俊廣

全国広報コンクールで「広報さよう」が2席入賞

～平成26年全国広報コンクールの審査結果～

日ごろから本町の広報活動にご協力いただき、ありがとうございます。

全国の市町村が平成25年中（1～12月）に発行・発表した各種広報媒体（広報紙・写真・映像作品）のうちから、優秀な作品を選び表彰する「平成26年全国広報コンクール」の各部門の入賞作品が決定し、本町の広報紙が広報紙部門（町村部）で2席に選ばれ、読売新聞社賞を受賞しましたのでお知らせします。

なお、近年の全国広報コンクールでは、平成17年の合併後、広報紙部門（町村部）で平成21年に2席、平成23年に特選（総務大臣賞）、平成24年に入選になっており、今回で4度目の入賞となります。

【※読売新聞社賞】

地域のニュース、人物等を積極的に取り上げ、住民の目線を生かした編集が特に優れている作品を対象に各部門から一点ずつ選定されるもの。

記

1. 受賞作品のあらまし

(1) 広報紙

受賞したのは、平成21年8月の水害で甚大な被害を受けた本町を縦断する「山崎断層」が引き起こす地震に焦点を当て、防災士を目指す地元高校生によるフィールド調査や被害想定、町民の「自助」と「共助」の実践活動などを「いつか来る 揺れに備えて」というテーマで特集した「広報さよう」平成25年12月号です。

なお、「広報さよう」は、町公式ホームページで閲覧いただくことができます

（掲載アドレス <https://www.town.sayo.lg.jp/cms-sypher/www/info/detail.jsp?id=2203>）

2. 審査結果の詳細

別紙のとおりです。

なお、報道解禁日は、5月8日（木）付け朝刊です。よろしく申し上げます。

別紙:平成26年全国広報コンクール審査結果の詳細

1 主催 公益社団法人日本広報協会

2 応募作品数

(1) 広報紙		
都道府県・政令指定都市部		49点
市部		61点
町村部		32点
(2) ウェブサイト		
都道府県・政令指定都市部		11点
市部		114点
町村部		25点
(3) 写真部門		
一枚写真		58点
組み写真		35点
(4) 映像部門		38点
(5) 広報企画		59点

3 広報紙部門(町村部)審査結果

特選	三重県紀宝町	広報きほう	(2013年12月号)
1席	福岡県福智町	広報ふくち	(2013年12月号)
2席	兵庫県佐用町	広報さよう	(2013年12月号)
3席	京都府宇治田原町	広報うじたわら	(2013年9月号)
入選	群馬県邑楽町	広報おうら	(2013年12月号)
入選	福井県若狭町	広報わかさ	(2013年4月号)
入選	静岡県吉田町	広報よしだ	(2013年6月号)
入選	鳥取県三朝町	広報みささ	(2013年12月号)
佳作	島根県飯南町	広報い〜なん	(2013年6月号)

4 審査評

広報紙(町村部)兵庫県佐用町「広報さよう」(2013年12月号)

巨大地震への備えを訴える特集だが、ただ震災に備えると言っても、なかなか具体的なことは想像がでない。しかし、この特集では、「自助、共助、公助」のための行動が示された。災害予測→減災の発想→コミュニティ能力への期待、という特集の筋や骨・土台の展開が頼もしい。冒頭の見開きに掲載された町の全景写真や断層の地図をただで、普段からの防災意識の大切さ、必要性を実感させられる。「山崎断層」を、専門家の見解を交えながら現地調査を行い、危険の内容や度合いを丁寧に解説しているところは、住民すべてに有益で、今後の拠り所となる。

特集の後半では、高齢者の多い地域で互いに助け合うことの大切さ、地域コミュニティを取り上げ、防災力が普段の地域の「つながり」の中で育まれるものであることを訴えかけてくる。「備えの一步は地震を知ること」というメッセージは気づきを与えてくれるし、防災士を目指す高校生の視点を入れる企画もよかった。

また、特集だけでなく、1冊全体の完成度も高い。「まちのわだい」「〇〇月のお知らせ」「生涯学習ひろば」「今月の健康」「くらしの情報」の切り口(カテゴリー)がそのまま情報への見出し(インデクス)に直結して、多くの文字情報が、すっきりと整理されている。画像に市民の笑顔がこぼれている。